

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成19年8月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2870801186		
法人名	アイビーメディカル株式会社		
事業所名	名谷すみれホーム		
所在地	(〒 655-0852) 兵庫県神戸市垂水区名谷町字高曾2298-1 電話 078-798-2588		
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成19年7月20日	評価確定日	平成19年8月30日

【情報提供票より】 [平成19年5月30日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	3ユニット (利用定員…計27人)		
職員数	22人	(常勤21人) (非常勤1人)	/ 常勤換算18.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上3階建て建物の 1階～3階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000円	その他の経費(月額)	17,000円	
敷金の有・無	有り (円) ・ (無し)			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	(有り) (500,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	(有り) ・ 無し	
食材料費	朝食	315円	昼食	588円
	夕食	588円	おやつ	84円
	または、1日あたり			円

(4) 利用者の概要 (平成19年5月30日 現在)

利用者人数	計26名 … (男性4名) (女性22名)		
要介護1	8名	要介護2	6名
要介護3	7名	要介護4	4名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均84.2歳 … (最低62歳) (最高95歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 名谷病院
---------	-------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣には、大型スーパー・量販店、ファミリーレストランも多く、買い物や外食をしやすい環境が整っている。隣りには系列医療機関である名谷病院が在り、緊急時の対応も含めて医療面での安心感も強い。居室は、その入居者の認知症度やADLによるフロア分けがされており、個々の入居者の状態に応じた支援がなされている。1階にはカラオケ機器も設置し、楽しみごとの1つでもある。これら、日常生活での創意工夫がたくさんみられることから、職員のケアに対する思いを強く感じる。地域交流に関しては、ホーム周辺は戸建住宅も少なく自治会が組織されていない地域であるが、近接地域の復興支援住宅(団地)の住民、自治会との交流をはじめ、地域外からの協力も頂けるようになり、これに伴って、ホームへの訪問者も増えてきた。◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①契約書や重要事項説明書が分りやすくなった。②運営推進会議の開催により地域交流の機会が増えた。③ベンチやプリンターを屋外に追加設置した。④立替払いにおける定期的な金銭出納報告をすることにした。⑤「すみれ便り」により利用者の様子を家族に伝えている。⑥職員全員と個別面談を実施することにした。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) ①各フロアリーダーが自己評価をし、管理者がその内容に目を通し、取りまとめを行った。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 地域包括支援センターの職員や隣接地域の自治会役員の出席のもと、昨年8月に第1回運営推進会議を開催した。会議で話し合いをきっかけに、近隣自治会(復興支援住宅「ベルデ住宅」自治会)主催の夏祭りなどの行事にも参加し、地域交流が大きく進んだ。これをもって、復興支援住宅の高齢化率が極めて高いことが分かり、今後は、広く地域福祉として親交を深めてゆきたいと考えている。運営推進会議の開催により地域に与える効果の良き例として、さらなる関係を築いていってほしい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 毎月、居宅療養管理指導記録表(個人記録表)を個別に郵送し、健康状態や生活状況を報告している。定期的には3カ月に1回、日常の生活ぶりを「すみれ便り」として送付している。ケアマネジャーが中心となって、定期的に、利用者やその家族から、面談や電話で意見・苦情・要望を聴いている。玄関にも意見箱を設置している。これら意見等を真摯に受け止め、その検討により清掃担当専門の職員を雇用したりもしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) ホーム近くには家屋は2軒しかないが、それはそれで良い面の効果もあり、隣接地域の復興支援住宅住民や近隣の自治会と交流できている。今後は、近隣地域にある商店、学区の小・中学校などにも交流の輪を広げ、避難訓練の協力などのお願いでゆければ…と思う。



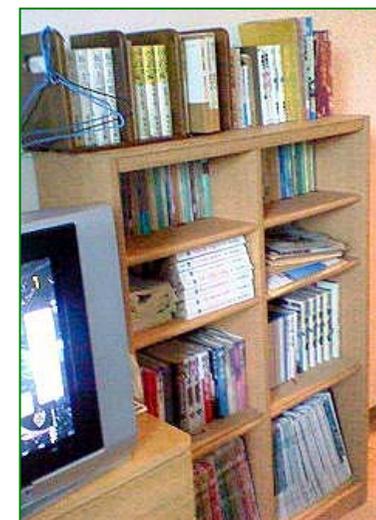
▲ 入居者と職員の共同(協働)作品



▲ リビング



▲ 開放感のあるキッチン
(ここから入居者の様子がよく分かる)



▲ “住まい”としての環境作り
(居室は、ご自身の好みで)



▲ 入居者別の手拭タオル



▲ 安全配慮(侵入防止の扉)



▲ 行動の把握(ドアベル)



▲ 訪問に備え、子供用のスリッパも…

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を「認知症の進行を穏やかにする・安心した日常生活・明るく家庭的・地域や家族との結びつきを重視」とし、玄関や事務所に理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が常に理念を念頭に置きながら、できるだけ今迄と同じ生活ができるよう、外出や外食、買い物などの日常生活行為を中心に、本人や家族の意向を取り入れた生活支援を行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ベルデ住宅(復興支援住宅)自治会の夏祭りなどの行事に参加させていただくなどの交流がある。	○	地域自治会は組織されていないが、避難訓練の協力依頼をしてみるなど、地域の商店とも交流してゆけるのではないかと。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の第三者評価結果を玄関等に置き、誰でもいつでも見ることができるようにし、家族等にも説明している。要改善点については検討を行ない、少しずつ改善するように努力している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域に自治会組織は無いが、地域包括支援センター職員や隣の自治会役員が出席のもと、昨年8月に第1回運営推進会議を開催し、会議には入居者家族も2名出席した。近隣自治会である復興支援住宅の高齢化率も極めて高いことがわかり、今後は意欲的に交流を行なう予定である。	○	運営推進会議の開催が少ないので、会議の存在を知らない家族等が多い。会議の回数を増やし、家族等へのその周知の努力もお願いしたい。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町へはサービスに関する問い合わせをし、必要としている機関等を紹介してもらうことがある。一例として、交流センターを紹介してもらい、市民講師を呼ぶことができた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、居宅療養管理指導記録表(個人記録表)を個別に郵送し、健康状態や生活状況を報告している。体調不良時にはその都度電話にて報告し、定期的には3か月に1回、日常の生活ぶりを「すみれ便り」として送付している。	○	医療機関への受診予定状況や、心身状況のちょっとした変化について家族に伝わっていないこともあるようなので、「便り」に追記するなどしてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアマネージャーが中心になって、定期的に利用者やその家族から面談や電話で意見や不満、苦情、疑問点等を聴いている。玄関に意見箱を設置し、それらを運営に反映させている。一例として清掃担当専門の職員を雇用した。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は必要最小限に抑える努力はしている。職員のユニット間異動を行なうこともある。	○	職員間異動があった時には、「便り」に載せるなどして、家族等に早期に報告してほしい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には入職時に集中研修を行ない、その後はホーム内でOJTを中心とした研修を行なっている。	○	研修の機会が多いとは言えない。法人内・外の企画を問わず、各種の研修に参加できるよう検討してもらいたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	在宅介護支援センターが中心となって、年2回程度開催される地域連絡会議(近隣13介護事業所が集まる)に出席し、地域の同業者と交流する機会を持っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人に見学に来てもらい、数日間の体験入居を経て入居に至るシステムをとり、入居前後には本人の様子を観察しつつ家族の意向を聞き、できるだけ希望に添えるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	家事を中心に普段の生活の中で、一緒に作業を行ったり、塗り絵や物作りといったことを協働しながら、楽しく日常生活を送れるように支援している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人面談や家族面談において意向を聞き、本人を中心としたポジティブな方向の支援をするようにしている。3ヶ月ごとにモニタリングを行ない、希望を把握した上で再アセスメントを行なっている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの希望や意向を聴き、日常生活の中からも利用者の個別情報を把握したうえで、サービス担当者会議を聞き、ケアマネジャー等関係者を交えて、できるだけその人らしい生活ができるような介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは6ヵ月ごとに行ない、モニタリングは3ヵ月ごとにサービス担当者会議やフロア会議、ユニット合同会議等を経て、本人や家族等の意見を取り入れた介護計画の見直しをしている。状態変化があった場合は、随時、介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制が整い、24時間体制で医師や看護師と連絡可能な状態にある。訪問診療、訪問看護、訪問歯科、訪問薬剤指導、訪問栄養指導等がそれぞれ2週に1回の頻度で提供されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームが医療連携体制を取っており、ほとんどの利用者が主治医を協力医療機関に変更しているが、家族や本人の希望によって、入居前のかかりつけ医を受診することもできる。また、家族からの要望や必要性があれば認知症専門医の診断や治療を受けることもできる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に係る指針」「看取り介護の指針」は、利用者や家族等に説明している。また、同意書を取り交わしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の一人ひとりの個性を把握し、その人に合った言葉かけを行なっている。個人記録等の情報は、各利用者ごとにまとめられ、面会簿についても個別に記録されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者の日々の過ごし方やペースを考え、本人の意思を尊重し、できるだけ自分で決めてもらうように支援している。整容では、習慣を重視している。化粧支援をしたり、歌好きの方を中心に通信カラオケを行なったりしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、準備、後片付けなどは一人ひとりの能力を見極めながら役割を持ち、職員と協働している。また、利用者の好みに合わせて月に1回程度の外食をしたり、食事メニューを希望に合わせて変更する事で楽しめるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	主には職員の多い日中に入浴時間を設定しているが、希望をすればいつでも入浴することができる体制をとっている。一番風呂を希望する利用者が多い。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合った日常生活上の役割(掃除、家事、洗濯物たたみ、おしぼり巻きなど)があり、ほぼ毎月、餅つき、花見、夏祭り、遠足などの季節行事を行ない、家族が同席出来る機会を作るとともに季節の変化を楽しんでいる。。テレビ体操は毎日行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望により、近隣スーパーへの買い物や散歩、外気浴などを行なうことで精神面での安心・安定を支援している。職員と一緒に2kmほど歩くこともある。	○	裏庭は広く、身近な外出場所として適しているので、整備し利用してもらいたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しているが、日中は玄関に鍵をかけていることが多い。また、各ユニット入り口も非常階段の危険性から施錠しているが、利用者の希望により職員が開錠しており、2階と3階については日中を通して開錠することを検討している。	○	2階と3階の入り口開錠について、扉を開ければ音が出るような工夫を検討し、早期に開錠を実現して欲しい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回の避難(消防)訓練を実施しており、緊急時対応マニュアルを事務所内のわかりやすい場所に掲示している。また、市民救命士の講習をほとんどの職員が受けており、ホームは119番専用通報装置を装備している。	○	近隣で火災が発生したときの対応方法や、自力歩行が難しい利用者の誘導方法などについて、近隣住民や商店を交えて検討し、災害時の協力が得られる働きかけをしてほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要のある入居者については、栄養指導や訪問看護による支援を行ない、食事量や水分量について、記録する必要がある利用者についてはチェック表を用いて記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りにはブランターやベンチが置かれ、玄関を入ると昔懐かしい手水鉢や観葉植物が置かれている。リビングや廊下には入居者の作品、季節の花、イベント時の写真などが掛けられ、落ち着いた空間作りがされている。リビングにはテレビやソファを置くとともにポットも設置し、利用者同士で自由に過ごせるようにしている。室内には温湿度計を設置し、常に利用者の状況を見ながら、こまめに調節を行なっている。リビングの壁面には利用者と職員で手作りした大きな貼り絵が飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族等の協力を得て、昔から使い慣れた家具や物品を持ちこみ、その人にとって居心地の良い空間作りをしている。読書好きの利用者は本棚を持ち込み、たくさんの書籍を置いておられる。		

※  は、重点項目。